日刊 動労千葉

80.1.14

No. 324

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一一八（動力車会館）

（鉄電）二二五八～九・（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

'80 550名の熱気ほとばしらせ 旗びらき大成功！

『いよいよ、わが本領発揮の試練のとき』

中野書記長 基調報告

一九八〇年動労千葉団結旗びらきは、1月12日、労働者福祉センター大ホールを埋め尽した五五〇名の熱気のもと大成功をかちとった。「80年代はたしかに厳しいだろう。だがこれこそ、われわれの時代だ！」―動労千葉組合員をはじめ、結集した反対同盟、全ての人々が80年代を切拓く決意をうち固め、うって一丸、第二波闘争へ突入する体制を築いたのである。

勝浦支部、丸幸一さんの歌唱指導による全員の力強いインター、組合歌合唱で幕明けし、西森副委員長の開会の辞に次いで関川委員長が主催者代表のあいさつにたった。

続いて、師岡武男氏による「80年代労働運動を展望して」と題する講演が一時間にわたって行われた。

師岡氏は豊富な経験と知識の中から今日崩壊の一途をたどる世界・日本の経済動向を分析し、今日の日本労働運動界で急進する右翼再編の現状と本質を明らかにし、「この右翼再編の波をふきとばす動労千葉の闘いに大きな期待をもって見守っていきたい」と結ばれた。

続いて不当解雇攻撃をけって闘う中野書記長より基調報告が提起された。

「基調報告要旨」

一人前になるためには様々な試練を受けるものだが、今回の不当処分はまさに動労千葉が本物になるための試練として重要視し長期強靱に闘いぬいてゆく。この不当処分および選別的弾圧を狙った「局報号外」は過去一年間にわたる「本部」暴力オルグをうちくだいた勝利故に、危機にかられた政府・当局・「本部」革マル反動分子一体となったあせりの「宣戦布告」だ。特に、「ジェット燃料暫定貨車輸送期限の切れる一九八一年三月」、加えて「35万人体制」攻撃を前に、決定的な破産に追いこまれることを感じとった敵が無謀な攻撃に出てきたものだ。それだけに矛盾をはらんでおり、現に国労仙台や東京の保線などでの反乱を見るまでもなく、全ゆる職場に不満と反撃が現出している。正しい戦略と強靱な組織力をもって闘うならば、敵を大破綻に追いこみ、35万人体制をうちくだくことも可能である。

ところが動労東京地本大会では「貨物安定宣言」路線は言うに及ばず、遂に「10年間勝ちとってきた要員にも手をつけるときがきた」「組合側から管理者を送りこむ」「合理化絶対反対は空論」「独占体に奉仕する国鉄という従来の規定は一面的だ、国鉄という企業の有用論を前面に出すべき」等という実に驚ろくべき方針がすでに決定され、それを見こすように、当局は、現に「55・10」を待たずして乗務員運用効率アップの提案まで東京三局でなされているありさまである。

このような情勢から、闘う動労千葉への当局・「本部」革マル反動分子の結託したなりふりかまわぬ攻撃は増々、激化するだろう。動労千葉が本領を発揮して闘いぬく試練の時は、これからが本番だ。敵の本質的弱点を見すえて、正しい路線を堅持し、労働組合の原則に徹し、自らの職場生産点で80年代に通用するたくましい自立した運動を築き上げていこう。と提起し、当面する方針として、

①1月16日からの「反処分・第二次反合運転保安闘争」突入。

②2月16日、80春闘・動労総連合を展望する「80年代を闘う労働者懇談会」開催。

③3月2日、全国の闘う労働者を総結集し、三里塚・80春闘勝利、右翼再編粉砕の全国大集会を勝ちとる。

という軸で提起されるや、満場はわれんばかりの拍手と歓声に包まれた。

直ちに動労千葉各支部委員長が全員登壇した。一きわ高い拍手と歓声の中、電車支部を代表して日暮成田支部長、機関区支部を代表して斉藤木更津支部長、そして田中康宏青年部長がそれぞれ断乎たる決意表明を行い、第一部を終了した。

第二部は、冒頭、反対同盟からかぎりない連帯のあいさつをうけ、恒例の「鏡開き」をはさんで各界からの熱い連帯のあいさつ、成田支部永田喜一さんの三味線、歌に手拍子に談笑と、樽酒をくみかわしながらの和気合々のうちにも、80年代勝利の執念をほとばしらせ、とりわけ成田支部永田さんの本格派三味線・鳩飼君（津田沼）の民謡、勝浦支部丸さんをはじめ各支部よりすぐりのカラオケ熱唱があいつぎ、まだまだ盛り上る中、全員の「団結ガンバロー」をもって、18時20分旗びらきは成功裡に終了した。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！